那覇市立教育研究所 所報

令和7年度11月号
所長 棚原 歩

令和七年度 全国教育研究所連盟研究協議会(長野大会)

那覇市立教育研究所 指導主事 松茂良裕子

令和七年十月三十日から三十一日にかけて、令和七年度全国教育研究所連盟研究協議会(長野大会)が開催された。本大会は、加盟機関が直面する教育上の課題について、実践研究等の成果をもとに研究協議を行い、学校教育の改善・充実に向けて、加盟機関における学校支援機能の向上を図ることが目的とされている。大会テーマ「探究的な学びを支える教育センターの在り方」のもと、基調提案、基調講演、分科会が行われ、教育活動の方向性や具体的な取り組みに示唆を与える内容が共有された。その中で基調講演の内容の一部を情報共有する。

〈基調講演〉

「探求的な学びを支えるために大切なこと」

軽井沢風越学園 校長 岩瀬直樹 氏

1 教員研修を取り巻く現状と課題

Hattie & Zierer(2017)のメタ分析に基づき、教員研修の効果量が示され、研修自体は高い効果を持つことが確認された。しかしながら、その一方で、日本の校内研修・研究には、複数の課題が指摘されている。主な課題としては以下の通りである。

(1)機会の限定性

研修時間が少なく、全員が公平にコミットしにくい。

(2)個々の問題意識の反映が困難

「やらされる研修」となりやすく、教師個人の問題意識を反映させにくい。

(3)「型はめ」への陥りやすさ

成果を「型」の創出に求める考え方から、「型はめ」に陥りやすい。

(4)閉鎖性・保守性の強さ

閉じてしまいやすく、形式的・形骸化しがち。

さらに、研修の問題点として、研修が内容に終始し、「形態(どう学ぶか)」や「同僚性(教師間の関係性)」への意識が弱いとされている。また、教師が長年の「被教育体験」から「学びはかくあるもの」と身体化してしまっていること、つまり研修での学習者体験の重要性が欠けている点も課題となっている。

2 「形態(プロセス)」に着目した研修デザイン

前述した課題を乗り越え、より実効性の高い研修とするためには、「形態(プロセス)」に着目し、以下の3つの研修デザインの重要性を再認識する必要がある。

(1)3つの「帽子」による力量形成

①学習者の帽子

「学習者」となり、学びの原体験を塗り替える経験をし、学び手感覚を磨く

②観察者の帽子

第三者の視点から学習者を観察(記録)し、その働きかけの背景にある「思いや願い」を推察する。

③実践者の帽子

学習者や観察者の経験を土台に、深い学習者理解をベースに実践を構想・実行し、試行錯誤やフィードバックを通して専門性を高める。

(2)組織の3要素を援用したデザイン

研修を一つの「組織」と捉え、以下の組織の三要素(共通目的、貢献意欲、コミュニケーション)を援用することで、より機能的なデザインが可能となる。

①コミュニケーションから始める(つながり)

コミュニケーションは他の二つを築く土台であり、研修の中で「耕す」。

②共通目的を共有する(意味づけ)

関係性と情報の流れができて初めて「何のために研修をやるのか」という意味が共有できる。

③貢献意欲を育てる(主体性・行動)

コミュニケーションと目的共有がなされていれば、「自分も貢献したい」という感情が生まれ、助け合いや自発的な協力が生まれやすくなる。

(3)問いの構造化とリフレクション

研修における「問い」は、参加者の当事者性を高め、リフレクションを深める鍵となる。講演では、4つの象限を行き来する「問いの構造」が提案された。

①振り返り(リフレクション)

過去の経験を具体的に思い出し、研修テーマを「自分ごと」にする。

②経験の意味づけ(省察)

経験の背景、構造、パターンに焦点を当て、学びの「核」を特定する。

③共通目的・ビジョン

ありたい姿、ビジョンを描き、その理由も含めて合意形成を図る。

④選択肢の拡大(実践)

学んだことを具体レベルで整理し、明日に繋げる。

〈所感〉

岩瀬氏の講演は、令和の日本型学校教育がめざす「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためには、教師自身の学び方を根本から問い直す必要があることを強く示唆していた。従来の研修が抱えてきた「やらされ感」「型はめ」「閉鎖性」から脱し、研修観そのものを「プロセス中心へ」と転換する必要性が明確に語られていた点が印象的であった。また、研修の流れをコミュニケーション・目的共有・貢献意欲とつなぐことは、教師の協働的な創造に直結すること。さらに、問いを構造化し、省察を深めることは、教師自身が探究を実体験することとなり、授業改善へとつなげられる点で、非常に意義深いものであると感じた。教師が学び探究し続ける姿そのものが、「令和の日本型教育」の実現に不可欠であると感じさせる内容であった。

◇◆◇ 各種研修・講座等 ◇◆◇

11/11 初任研拠点校指導教員等連絡会

10/29 ICT 第5回 情報教育推進部会
「公開授業」授業者:清水香穂(石嶺中)

11/12 ICT 情報教育推進部会
「検証授業」授業者:松田泰知(城南小)

11/14 ICT 第6回 情報教育推進部会
「公開授業」授業者:城間隼也(小禄南小)

□令和7年度 第125期教育研究員

11/6(木)	中間検討会Ⅰ(教育研究員)
11/7(金)	所内講座⑤「タブレット活用」
11/27(木)	指導案検討会

中間検討会Ⅰ

所内講座⑤「タブレット活用」

◇◆◇新着図書(11月)のお知らせ◇◆◇

『子どもの声で学校をつくる』 長瀬基延
『生徒の強みに気づき、「できる」を育てる心理学』 伊藤拓
『1年目から生徒に信頼される! 中学校数学授業づくりの教科書』 藤原大樹
『子どもが主語になる理科授業のしくみ』 前田昌志
『その自由進度学習、間違っていませんか? 失敗しない進め方』 樋口万太郎
『外国語を専門にしてこなかった学級担任のための小学校英語指導法』 土居正博
『算数授業の流れに悩んだら読む本』 本田龍一朗
『子どもが主体的に考える! はじめての算数科「問題解決の授業」』 谷地元直樹
『くらべてわかるオノマトペ』 小野正弘
『ピアフィードバックのゼロ段階』 河村茂雄
『面白ネタ&ランキングで覚える 都道府県完全学習BOOK』 阿部雅之

☆こちらのQRコードから研究所の新着案内を閲覧できます

☆令和8年度 第126期(前期)第127期(後期)教育研究員募集について ☆

詳細につきましては、「令和7年9月29日付け文書『令和8年度 教育研究員募集について』」参照

1 研修期間

令和8年度前期【第126期】 令和8年 4月1日~令和8年9月30日〔6か月〕
令和8年度後期【第127期】 令和8年10月1日~令和9年3月31日〔6か月〕

2 募集人員…7名(予定)

前期【第126期】	こども園1名	小・中学校3名	合計4名
後期【第127期】	こども園1名	小・中学校2名	合計3名

3 応募方法

(1)手続き

入所研修を希望する者は応募書類①様式1、②様式2を添え、所属長に申し込む。所属長は上記書類に応募書類③「推薦書」(厳封)を添えて提出する。

(2) 応募書類

① 様式1「令和8年度教育研究員申込書」・・・・・・・1通
② 様式2「研究テーマ及びテーマ設定の理由」・・・・・1通
③ 様式3「推薦書」・・・・・・・・・・・・・・・・・1通

(3) 提出先 小・中学校:那覇市立教育研究所所長宛て
こども園:那覇市こどもみらい部 こども教育保育課課長宛て

(4) 応募期間 令和7年9月29日(月)~11月28日(金)